

# 患者さんへの臨床研究のお知らせ

## 臨床研究「多発性骨髄腫に対する同種移植に関するアンケート調査」について

自治医科大学附属さいたま医療センター 血液科では、全国の血液内科との多施設共同研究として、下記の臨床研究を実施しております。この研究は、当センターでの診療で得られた過去の記録をまとめることによって行われます。「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に従い、対象となる患者さんから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせがございましたら、下記へご連絡下さい。

### 【研究目的】

一般に多発性骨髄腫は治癒を期待できる疾患ではなく、良好な生活の質を維持しながら長期生存を目指すことが治療目標になります。一般に自家造血幹細胞移植の適応となる 65～70 歳未満の移植適応患者さんと、高齢あるいは重要臓器障害のため適応とならない移植非適応患者さんによって異なる治療戦略が選択されます。多発性骨髄腫に対する同種移植は唯一治癒の可能性のある治療法と考えられていますが、移植関連死亡率が高いため、自家移植に対する優越性は認められていません。しかし、長期間観察後の生存率に関しては同種移植が自家移植と比べて有意に勝っているとの報告もみられ、特に治癒または長期生存を目指した治療が求められる若年の多発性骨髄腫患者さんにおいては、同種移植が治療選択肢となりうると考えられます。

本研究では多発性骨髄腫に対して同種移植を受けた患者さんの背景や治療成績を後方視的に解析し、本邦における近年の傾向や治療成績を明らかにすることを目的としています。本アンケート調査による報告が今後、多発性骨髄腫に対して同種移植を選択するかどうかの一つの重要な指標になる可能性があると考えています。

### 【研究の対象となる方】

2010年1月1日から2015年3月31日までの期間で、当科で多発性骨髄腫に対して同種移植を受けられた患者さんです。

### 【研究の方法】

研究では、全国の血液内科（日本骨髄腫学会会員の所属施設かつ同種移植実施施設（約 50 施設））にアンケート調査を行い、患者さんの数と行った治療、治療経過について調査します。

### 【個人情報の取り扱い】

調査は匿名で行います。結果は学術的研究に使用され、一人ひとりの個人情報は守られ、名前や個人を識別する情報は一切公表されません。また、患者さん個人に利益や不利益は生じません。研究結果は公的な学術大会や学術雑誌にて報告し、今後の検査法・治療法の改善に利用されます。第三者へ供給することはありません。

ご自身の情報が本研究に使用されることに同意されない場合には、下記へお申し出ください。研究に不参加であっても、患者さんが不利益を被ることは一切ございませんのでご安心下さい。

### お問い合わせ先

〒330-8503 埼玉県さいたま市大宮区天沼町 1-847

自治医科大学附属さいたま医療センター

Tel.048-647-2111

研究責任者：血液科 神田 善伸